

科学技術コミュニケーションの裾野を広げ 厚みを増すための、新たなミーティングの 実施

(サイエンスカクテルプロジェクト) 古田ゆかり

Creation of a new community for expanding the field of the science communication.

Sciencecocktail Project ○FURUTA, Yukari

Keywords: Science Communication ; Community; Meeting; Business; fostering and promotion of science communication;

科学コミュニケーションの活動領域を広げ、社会における科学コミュニケーションの潜在的な需要に応えるため活動の充実を目指す、新たなミーティングを創設するプレミーティングについて報告する。

[社会の潜在的需要に応える科学コミュニケーション]

これまで科学技術コミュニケーションでは、科学をわかりやすく伝える、専門家と非専門家の橋渡しをするなどのほか、地域の人びととの対話の促進などの活動が行われてきた。同時に、科学や技術に関心のある一部の層のみならず、さらに多くの人との共有が必要だと認識されてきた。科学コミュニケーションにおいては今後、活動や活用のフィールドをさらに広げ、多様な発想による手法の開発、潜在的な需要や新たな担い手の掘り起こしが必要である。それには科学コミュニケーションを主な関心事とするメンバーだけではなく、さまざまなアイデアやスキルを持った人たちがそれぞれの技能やフィールド、ネットワークを生かして事業や活動を展開することが肝要である。しかし、科学コミュニケーションを主な関心事とする人たちを除けば、科学コミュニケーションの必要性やその活動、潜在的な需要への理解は人口に膾炙しているとは言いがたい。

科学コミュニケーションの文脈を意識的に持つてはいないものの、科学コミュニケーターに近い役割を現実的に担ってる人との意見交換や協働、異分野の人と共同して新しい価値を創ろうという意識ある人同士が出会い、交流し、新規参入もしやすい集いの場を定期的に開催し、研鑽の場、出会いの場、活動や活動創出の場（ミーティング）を作ることを提案したい。その実現のためのプレミーティングを実施した。本報告では、プレミーティングの議論と方向性を述べる。

[新しいミーティングの趣旨]

新しいミーティングの趣旨、役割は以下の通りとした。

①科学コミュニケーションの活動の場の「鉱脈」を探す、創造する、開発する。②科学コミュニケーターが社会のさまざまな場面で活躍する、多様な担い手のつながりと協働を生み出す。③科学コミュニケーションにおいて次の一步に踏み出したい人の力になる場をつくる、の3点をこのミーティングの趣旨とした。

また、すでに科学コミュニケーション活動に関わっている人にとっても、それぞれのステップアップや活動の充実のために、以下のような目標を設定した。①科学コミュニ

ケーションをこれから始めたい人は、活動に関わるきっかけを得て実践にうつす。②現在科学コミュニケーションに関わっている人は、活動をより充実させ、望めばプロとして活動するための足がかりを得る。③科学コミュニケーションにおいてすでにプロとして活動している人は、クオリティを高めたり社会の認知や需要を喚起し、さらに活躍するためになすべきこと、というそれぞれの立ち位置に即したステップアップを目指せる場とする。

[ミーティング実現のためのプレミーティングの実施]

2017/6/3(土)～4(日) 神奈川県三浦市にて。

このようなミーティングの場の実現を目指して過去約2年にわたって不定期に議論してきたが、現状認識をするとともにそのミーティングが創出しうる活動や社会の姿、参加メンバーの多様性確保して、具体的な活動をどのように生み出していくかなどについてのプレミーティングを実施した。

プレミーティング参加者は10名。ほか、不参加ながらも準備のための会合参加者は8名。ミーティングのプログラムは以下の3つの要素から構成した。

1. 科学技術のコミュニケーションの現在を俯瞰して、現状認識を行った。科学コミュニケーションの要素を網羅的に可視化した後、これらを「社会課題に向きあう⇔知的好奇心を満たす楽しみとして」[社会に潜在的な需要がある⇔潜在的な需要は低い]など軸をもうけてマッピングを行い、科学コミュニケーションが社会の中でどのような部分で意識されたり、活用されたりしているのかを概観した。
2. 次にコンテンツ、活動の場、人材育成、認知の向上、これからの社会像などを検討し、科学技術のコミュニケーションの可能性を探る作業を行った。このことから社会のどこに需要があるか、または創出しうるのか、担い手はどのような領域に分布しているのかなどを概観することを目指した。科学コミュニケーションのマーケティングや目指す社会像などについて議論を行った。
3. これからの科学コミュニケーションのためになすべきことと第1回の開催までの活動を確認した。また、討論のテーマやどのようなニーズを持った人を参加対象とするかなどについてイメージを共有した。どのような目的や意識を持った人を参加対象とするかについても大まかに整理した(ただし、ここに記すものはあくまでも想定であり、それ以外の意識や目的の持ち主を排除することを意味しない)。主なものとしては、①利害関係者を分析したい(市場とパートナーと競合など)②必要なスキルを明らかにしたい。自らの強みを把握したい。③プロとノンプロの違いを明確にしたい。④プロのコミュニケーションは社会に求められるのか。社会の中で価値を発揮しうるのかを論理的に理解したい⑤活躍できるよねというフィールドの青写真を描きたい⑥これまでの科学コミュニケーションではあまり考えられてこなかったステージに気づきたい。⑦他の人のコミュニティに混ぜてもらいより、自分で活躍の場を創れる人が集まれる場としたい、などである。

[実施するミーティングのスタイル]

具体的な事業の企画提案を行い、活動の質、実現可能性、その方法論などを議論する。回を重ねて内容を精査し、実践に移していく形態をとる。これを定期的に行うことで、プレゼンテーションの本数や参加人数を拡大していくこととする。